第 26 回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ東京 2016） 実施報告書

実行委員長　　原田　浩二
レース委員長　　髙橋　祐司
レース副委員長　　中川　二朗

は じ め に

第 26 回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ東京 2016）は、9 月 4 日（日）に、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所及び若洲沖で、外務省、文部科学省、東京都、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と、三起商工株式会社（ミキハウス）の特別協賛及び大塚製薬株式会社の協賛を頂いて、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下ＪＹＵという）と東京都ヨット連盟との共同主催にて開催されました。

参加艇数は、OP 級上級者 22 艇、OP 級初級者 30 艇、レーザー4.7 が 8 艇のエントリーでした。合計で 60 艇でした。指導者・保護者 39 名に運営役員その他に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者の体験試乗会に子供が 10 名、保護者等の帯同者が 7 名計 17 名の参加で総勢 150 名以上となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

7 時 30 分から受付が開始され、参加資格の確認やパンフレット・帆走指示書等の配布とスムーズに準備が出来ました。その後、持込み艇のバースへの誘導、チャーター艇（ＯＰ級６艇、レーザー4.7 が１艇）の引渡し等々の業務が順次行われ、サポートボートの受付も１艇ありました。

開会式

8 時 30 分、主催者を代表して佐藤精知夫副会長から選手に向けて挨拶がありました。

「この大会は、これまでに世界で活躍する選手を沢山輩出し、我が国のヨット界・スポーツ界にとって意義ある大会となっています。選手の皆さん、日頃の練習の成果を思う存分発揮することを願います。また、ご父兄・指導者にもお礼を申し上げます。」

開会式

開会式終了後、A海面グループとB海面グループに別れてスキッパーズミーティングを10分ほど行いました。
A海面は、大気が不安定で変わりやすい天候と強い潮と川の流れの影響を受けやすい海面の特徴、また、季節の変わり目ですから、着る物に注意してくださいとの説明をしました。
B海面は、昨年同様に予選・決勝方式で行うことと、４グループ分けして行うレースの進行について説明をしました。
参加選手の中には、今年セーリングを始めた選手も多く、初めて公式レースに参加した選手も数多く見受けられ、特にスタート時の注意事項を念入りに説明しました。

B海面のスキッパーズミーティング

レース

［A海面：若洲沖三枚洲付近］
出艇の頃一時雨が降りましたが徐々に回復して陽射しもあるなどで夕方まで無事レースが出来ました。
荒川の流れが速かったので、選手の安全を最優先にして、レース委員会艇やサポートボートの支援も得て全艇曳航でレースエリアへ向かいました。レース海面付近の状況は、風向が北で風速がAverage6ノット、潮流・荒川の流れ1.3ノットで、レース艇が流されるので、レース委員会艇やサポートボートその他の艇から曳航ロープで数珠つなぎにしてスタートライン付近に待機して貰いました。
予定通りレーザー4.7クラスの第1レース予告信号を9時55分に掲揚しましたが、8艇全艇がスタートライン上に到着出来ず、やむを得ず回答旗をレース委員会信号艇に掲揚し、風待ちとしました。その後、舞浜方面からの安定したブローを待ち、10時50分回答旗を降下し、10時56分オールクリアでスタートしました。
引き続きＯＰ級上級者クラスの予告信号を掲揚しましたが、ゼネラルリコールとなり、再度準備信号機U旗を掲揚して、11時10分にリコール艇なしでスタートしましたが、9艇がスタートラインを時間内に通過出来ずＤＮＳとなりました。
レーザー4.7クラスは、トップ艇の第2上マーク回航後に風が弱まったので、2回目の下マーク（第4マーク）手前でレース委員会艇にＳ旗を掲揚してコース短縮しましたが、3艇のみフィニッシュし残り5艇がタイムリミットとなってしまいました。
ＯＰ級上級者クラスも第1上マークをトップ艇が回航後に風が弱まったので、下マーク（第2マーク）手前でレース委員会艇にＳ旗を掲揚してコース短縮しましたが、3艇のみがフィニッシュし、残り10艇はタイムリミットとなり、第1レースはＤＮＳ　9艇、ＤＮＦ　10艇、フィニッシュ艇は3艇という結果になりました。
第1レース終了後、気温の上昇と共に舞浜方面からのブローが極端に弱くなり、風待ちとしました。
その後210°6ノットのパフの報告を受けてスタートラインを設定し直し、第2レースは、12時39分にレーザー4.7クラスがリコール艇3艇ありでスタート、ＯＰ級上級者クラスも12時44分にリコール艇9艇ありでスタートしました。
レーザー4.7クラスは次第に風速が弱まり、2回目の下マーク（第4マーク）手前でコース変更（風軸210°約0.28マイル）して全マークを回航してフィニッシュとなり、1艇のみがタイムリミットとなりました。

ＯＰ級上級者クラスは第１マーク付近で風速が弱くなり、１回目下マーク（第２マーク）手前でコース変更（風軸 210° 約 0.28 マイル）した結果、3 艇のみがタイムリミットとなりました。

第 2 レースはＯＰ級上級者クラスが 13 時 30 分に先に終了したので、引き続き第 3 レースをＯＰ級上級者クラスから実施することとして、13 時 39 分にリコール艇 13 艇ありでスタートしましたが、レーザー4.7 クラスは第 2 レースが 13 時 34 分 30 秒に終了したので、13 時 35 分以降には予告信号を掲揚出来ない帆走指示書に従って、やむを得ずＮ・Ａ・クラス旗を掲揚してハーバーバックとしました。

第 3 レースのＯＰ級上級者クラスも第 1 上マーク付近で風速が弱まり、1 回目の下マーク（第 2 マーク）手前でコース変更（風軸 180° 0.22 マイル）した結果、1 艇のみのタイムリミットで終了しました。

ＯＰ級上級者クラス

レーザー4.7 クラス

［B海面：訓練所前ポンド内］

レースに先立ちスキッパーズミーティングでは、レース方式を念入りに説明しました。エントリー30 名中、今年セーリングを始めた選手が数名、初めて公式レースに参加した選手が 10 名近くおりました。そこで、出来るだけわかりやすく、出艇の手順と、スタートの手順やレース後の待機場所などを説明しました。今回は 30 名のエントリーのため、予選を 3 つのディビジョンに分け、各組 10 名の選手が夫々 1 レースを行い、その順位に従って、決勝戦を 3 レース行う方式としました。

第 1 レースを 10 時にスタートさせるべく、運営艇は 9 時 35 分に出航し準備を進めたものの、風弱く風向も安定しないながら、10 時 10 分に第 1 レースをスタートさせました。引き続き風軸に合わせてマークを打ち変えて予選第 2 レースを行いました。、その後風速が落ち、風向も安定しないことから、11 時 10 分に選手を全員陸上での待機としました。その間に昼食をとることとしました。

12 時過ぎに風向も安定してきたことから、陸上でＬ旗を掲揚して各チームの指導者を集め、予選第 3 レースを行った後、引き続き決勝戦を行う進め方を説明しました。

予選の各レースでは、2、3名がスタートラインにオンタイムに着けなかったり、潮の影響を受けて第2マークの回航に手こずったりして帆走に苦労をしていたようですが、陸上からの大きな声援と指導を受けながら頑張っていました。

決勝戦は、予選の結果から第1レースは予選7、8、9位、第2レースは予選4、5、6位、第3レースは予選1、2、3位の組合せとし、各クラスの1、2、3位は勝ち残りとして次の上位クラスのレースに参加できるようにしました。

結果は別紙に示す通りですが、葉山町の青山さんは予選、決勝とも全て1位で完全優勝でした。特筆すべきは、茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブの加藤君が、予選では7位でしたが、決勝第1レースで1位となり、決勝第2レースでも2位と頑張り、決勝第3レースでは9位に終わりましたが、4レースに参加する頑張りを見せてくれました。

ＯＰ級初級者スタート（ポンド内）

ＯＰ級初級者クラス（ポンド内）

ＯＰ級初級者のレースを岸壁からの応援

在日外国人の体験試乗会

今年は朝の内の小雨も上がり晴れ間も出て何とか天候も持ったので、昨年に引き続いて参加の江東区のケイ・インターナショナルスクールの小学生10名と保護者7名の計17名が集まって頂きました。デイクルーザーとギグに交代で分乗し、弱い風の中でもセーリングを楽しんで頂きました。お昼の弁当を食べたらもう一度乗りたいという希望が多く、子供達だけとか好きな家族同士で乗って楽しんで頂くことが出来ました。

この中から、ヨットに乗る子供たちが出て来るのが楽しみです。

成績

OP級上級者クラス

第1位　渡辺信幸　(江東区立小中学校セーリング部)
第2位　重松　陽　(夢の島ヨットクラブ)
第3位　宮本あかり (夢の島ヨットクラブ)

OP級初級者クラス

第1位　青山若生　(葉山町セーリング協会)
第2位　白石尚也　(横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ)
第3位　左近麗咲子 (葉山町セーリング協会)

レーザー4.7クラス

第１位　三浦帆香　（千葉ヨットビルダーズクラブジュニア）
第２位　中島優揮　（横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ）
第３位　谷口美羽　（江東区立小中学校セーリング部）

閉 会 式 ・ 親 善 パ ー テ ィ ー

おなじみのキッチンカー

表彰式・閉会式・親善パーティーを 16 時に開始しました。キッチンカーから各テーブルに順次温かい食事が出されて、先ずは食べて、飲んで一息ついたところで表彰が始まりました。

髙橋祐司レース委員長がクラス毎に成績を発表し、クラス毎に入賞者に賞状、メダル、ミキハウスの副賞の授与が行われ、皆さんでその栄誉を讃えました。

髙橋祐司レース委員長

ミキハウス　執行役員光川社長室長

佐藤精知夫レガッタ副会長

毎年参加して頂いている特別協賛会社ミキハウスの光川部長さんから、OP 級上級者優勝者の江東区立小中学校セーリング部渡辺信幸選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップとブレザー、OP 級初級者優勝者の葉山町セーリング協会の青山若生選手にもクリスタルガラスのミキハウスカップが授与されました。

ＯＰ級上級者優勝の渡辺信幸君と上位入賞者

ＯＰ級初級者優勝の青山若生さんと上位入賞者

団体表彰としてのクラブ対抗レースは、25 名の沢山の選手が参加した江東区立小中学校セーリング部が優勝の名誉に輝き、ＪＪＹU会長特別賞の海外セーリング研修参加資格が授与されました。

クラブ対抗レース優勝の江東区立小中学校セーリング部
代表者　浜崎濠次郎さん

また、入賞できなかった選手たちだけによる恒例の「じゃんけん大会」によって、たくさんのミキハウスグッズが順番に贈られて、にぎやかなパーティーとなりました。

最期に髙橋有樹プロテスト委員長からレース講評がありました。

朝は雨が残りましたがその後晴れ間が出て、レガッタは事故もなく無事に終了しました。

最 後 に

例年、特別協賛いただいている三起商行株式会社（ミキハウス）様をはじめ、大塚製薬株式会社様等の後援・協力をいただいている各団体様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

以 上